



夕刊 (刊)

改革概論(天)

第二章 出資點

第一章 國力充實

其間に於て偶々白人の併合を免れて居るのは日本の外にわづかに支那、土耳其、シヤム、埃及等數國に過ぎない。しかも大抵皆老邁衰弱、人をして早晩白人の治下に立つのであるまいかとさへ思はしめるものもある。

愈よ形成險惡化

野崎派から横領の告訴

家調選挙にも關係せん

石城民政俱樂部の建物を現縣議若松美三氏外卅一名の共有物として保存登記を行つたことに對し適宜同黨が萩原野崎派の勢力争ひがあるのを因縁を起してあることは曾て詳報したが、兩派に於ける其後は愈よ

クラブの保存登記

求心的勢力は世界無比其外外國に於て排斥さるるが人口は各國の本國のみならず益々強固である此れは六番目である、これは世界第一の強味である、ただで世界大國の一と謂第三軍備も相當充實して居るはねばならぬ、第二皇室中心の

平町の徴兵署

第一枚に決定

石城郡壯丁検査日割は既報したが平町に於ける徴兵署は第一小學校に決まつた。

選挙戦

漸く表面化

平町の家調第二次委員選挙が民政黨内に野崎派萩原派の争奪戦を演出してあることは昨報の如く目下盛んに暗中飛躍を行はれてゐるが前澤文太郎氏を適任に内定してある萩原派の荒川淺次郎氏が既に町議二期を勤めた先輩と稱し自ら打つて出でんとする野崎派が自派の爲にする宣傳だと打消すが如き選戰漸く表面化を見せ

相互に投網されぬ

久と四倉の争ひ

喧嘩の兩損鳴すば雉

子も打たれぬものを

四倉町の角網對久の濱町大したの因縁が再燃せるの敷の紛争は既報の如く相互に投網されぬものを、久と四倉の争ひは、互に投網されぬものを、子も打たれぬものを、

監視船

監視船を派して嚴重に取締つてゐるので相方共石城郡植田町生れ當時湯本町入山炭礦坑夫小和田勇(は)は廿九日夕刻同町に

逃

前借を踏

み倒して

宮城縣遠刈田温泉地の料理店村上め方抱酌婦自稱同縣栗原郡藤里村宇瀬峰生れは去月廿五日所用あつて仙臺へ行つた歸途前借を踏み倒して逃走したので抱主から五日平署へ捜査方願出たがきよは小柄な面長の女で口元の右上に小さな黒い痣のある特徴をもつてゐると。

横領

拾つた金で

飲みあるく

右本社に採用編輯並に營業方面に従事致させます

新聞社

右本社に採用編輯並に營業方面に従事致させます

六月栽培

の蔬菜類 (一)

六月栽培の蔬菜類は、六月の上旬から中旬にかけて、乾燥地には播種する、播種期である「にんじん」は乾燥地に播種する、播種期である「にんじん」は乾燥地に播種する、播種期である「にんじん」は乾燥地に播種する、

新新聞社

右本社に採用編輯並に營業方面に従事致させます

安價に
迅速に
丁寧な
親切に

福島縣石城郡平町
遠藤活版所
電話七四三番



親切と迅速をモットーとする
寫眞の御用
命は當館へ
大野寫眞館
平町仲田町

磐城平町
彫刻 印刷
玉章堂
三丁目元郡役所通

街客様之良品質賣

ナフトール友仙
メリンス友仙
春柄本場銘仙
英ネル新柄
本セール
正絹帯皮

入荷
山積

平町伊伊関吳服店

外運動用
に小兒車

各種
丸ぼん

お子様同伴
のご散歩に
保健と衛生
を兼ねたる
乳母車各種



平町三丁目 電話三五九番

内外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平町・電話五一三番
高久病院
院長 醫學士 高久 忠

元 詰 G.H.N. スペイン

葡萄酒 ポートワイン
甘味 1.10
ゴルフ

御婦人の方には少し水を加へて
召し上るさ風味一そう佳良です
電話 西村屋薬舗 (三番)

破格の勉強で
歡迎される
静岡本場 大角園 約特
小笠銘茶 約特
●香深い新茶が着きま
した
半谷商店
平大町若松病院隣

皆様のひるのき
アイスクリーム 各5錢
レツキス 各5錢
レツキス 各5錢
ソルダ水 20錢
ラヒターエフカ
番〇二六話電・前 驛 平

清林定なお産教
御散財をかるく
平町三丁目電話二〇番

平町四丁目
電話二四〇
ツルヤ

壹金拾錢

心地よい泡立
優雅な香
品質純良
價格低廉

入湯時の快感を
「カクニ石鹼」で

諸毒下シの大妙藥
安流丸
平町五丁目角
特約 山野邊藥局

平町
◆ 需 應 院 入 ◆
院 醫 沼 藤
番七〇五話電

御料理
尼忠
面白く
お安く
平新田町
電話八六五番

味噌醬油
正宗
鐘詰鯉節
山崎會社
電話 釀造部 二七番
營業部 一〇番

御進物には
商品切手

親しまへ良友
愛す良品

品質の位本

最新流行行
會津桐材
自製専門
小松はき物店
磐城平二丁目
電話九一〇番

よろちございますか
うちりますよ
中島寫眞館
平町字田町